研修会参加報告書
草津市議会議長・西村隆行様

2025 年 9 月 8 日

地方議員研究会「決算質疑特別講座」

１．研修概要

日　時：令和 7 年 9 月 6 日（土）10:00～16:00
会　場：リファレンス西新宿大京ビル 2 階
主　催：地方議員研究会
参加者：草津市議会会派「みらいと維新の風」田中詩織議員・八木良人議員

本研修は、地方議員が「決算質疑」を効果的に行うための知識と技術を体系的に学ぶことを目的として開催された。講師の木村亮太氏（元枚方市議会議長）は、議会改革や政策提言型質疑に豊富な経験を有し、具体的事例を交えながら解説を行った。

２．研修内容

午前・午後にわたり、以下のテーマで講義が行われた。

（1）決算審議における基本的な考え方

決算は「前年度の事業の成果と支出の妥当性を検証し、今後の政策提言につなげる場」であることが確認された。単なる事実確認にとどまらず、改善提案や制度改革へ結びつける必要がある。

（2）質疑作成の流れ

ネタ探し → 職員との打ち合わせ → 答弁調整 → 議会発言 → 情報発信

特に「決算で取り上げる」と明確に伝え、早期に職員と共有する重要性が強調された。

（3）着眼点と分析視点

目標と実績の乖離、実績推移の増減要因、外部要因の影響、事業目的と手段の整合性。

曖昧な質疑を避けるために「5W1H」を徹底する必要がある。

（4）活用すべき資料

行政評価、総合戦略・人口ビジョン、事務事業評価、決算審査意見書、財政状況資料集など。

特に監査委員の意見書は質疑の重要なヒントとなる。

（5）特別会計の質疑ポイント

国保・介護・水道等は独立採算制として、企業経営の視点で収入増・支出減の両面を確認する。

（6）具体的事例紹介

耐震化事業の目標未達成、外部団体委託の高人件費、不登校児童生徒支援事業の未達と予算減額の矛盾、福祉輸送サービスの効率性欠如、障害者歯科診療補助の需要と供給の不一致などが示された。

いずれもデータに基づく原因分析と改善提案の重要性が強調された。

（7）フォローアップと情報発信
　質疑で指摘した点が次年度予算にどう反映されたかを追跡することが不可欠である。
　ブログや「issues」等を通じ、市民の声を集め政策形成に活かす手法も紹介された。

3．所感

今回の研修を通じ、以下の点を強く認識した。
・決算質疑は「政策提言の場」であり、単なる数字確認に終わらせないこと。
・エビデンスに基づく議論のため、事務事業評価や監査意見書を徹底的に精査する必要があること。
・職員との信頼関係を築きつつ、議員の「理想追求」と職員の「現実執行」を架橋する姿勢が重要であること。
・市民との対話・声の収集を重視し、議会内外での情報発信を強化すること。

4．今後の活用方針

・会派内で決算審査テーマを分担し、各自が徹底的に資料を読み込み、政策提案型質疑を実践する。
・決算審査後にはフォローアップを行い、次年度予算との接続を確認する。
・市民からの声を吸い上げる仕組みづくり（オンラインツールや意見募集の活用）を検討し、議会活動の透明性と参加性を高める。

5．まとめ

本研修は、地方議員が決算審査を単なる形式的な審議ではなく、市民の声を反映した政策改善の場として活用するための貴重な学びの機会となった。また講師の木村亮太さんは、枚方市議を 12 年務められ議長経験もある方なので、議員の立場と行政職からの視点を織り交ぜて講義されたので、とても理解しやすく、今後は本研修で得た知見を草津市議会での活動に反映し、会派「みらいと維新の風」としてより実効性ある質疑を行っていく。